

特集「ユニアデックスの IT マネジメントサービス」の発刊に寄せて

入 部 泰

ユニアデックス株式会社（以降ユニアデックス）はハードウェア・サポートサービス、ネットワーク・インテグレーションサービスを主力事業として1997年に日本ユニシスから独立し、2003年にはソフトウェア・サポートサービス、また後に設備事業、インターネット事業などが移管されて今日に至っている。サーバ、ストレージ、ネットワーク等に対するハードウェア及びソフトウェアのサポートサービスを中核とし、これら技術力を活かした設計、構築、運用など情報通信技術（以降ICT）に纏わるインフラストラクチャ全般についてのサービスを提供する企業である。

ICTが単なる事務合理化の手段ではなく、経営そのものを成立たせる必須のインフラとして重要性は高まっているものの、2008年のリーマンショック以降、景気の低迷、先行きの不透明感などからICTに対する投資抑制の傾向が続いており、企業はシステム化する要件を整理し、設計から開発、製造、また円滑に稼働するための運用、維持管理までを全て自前で担うことは、難しい状況となっている。

最近のICTトレンドであるクラウドコンピューティングで云う「所有」から「利用」へという流れは、こうしたマーケットの要求に叶うものであり、着実に進展していくと予想される。しかしながらICT資産を持たずに利用するだけという世界は一挙に実現できるのではなく、いくつかの段階を経て実現されると考えている。ユニアデックスが2007年から提供してきているICTのライフサイクル・マネジメントサービス（LCM）は、顧客が日々煩わされている様々な運用管理の業務を代行し、調達から廃棄までのライフサイクル全般をアウトソースするサービスであり、「利用」への第一段階と云える。

また、来るべきクラウドコンピューティングの世界では、クラウド事業者あるいは企業内のクラウド環境について、仮想化、グリッド技術、セキュリティ技術などを駆使して大規模なシステム基盤を設計、構築し、運用から全ての製品保守までを一貫してユニアデックスが提供する事を考えている。

従来の運用管理サービスは日次、月次の定常業務を人手中心に運用することが主であったが、運用を通じてICTの最適化を図るため、システム構成の可視化による合理化の提案、システムの能力評価、業務の変化によるリソースの手当てなど、アセスメントや提案型のサービスを新たに加え、またリモートを活用した徹底した自動化、省力化によりコスト低減を図ることで、これまでの運用管理サービスを進化させ、サポートサービスを含め、新たに統合的なITマネジメントサービスとして提供していくので、これからもユニアデックスのサービスに、おおいに期待していただきたい。

なお、ユニアデックスでは通信技術が今日の情報システムにとって重要な位置づけであることから、情報システムに対する表記を「ICT」としているが、本特集では一般的に認知度の高

2 (180)

い 'IT' に統一して表記している.

本特集が読者にとって興味を抱かせるものであれば幸いである.

(ユニアデックス株式会社 代表取締役社長)